



# 多度志の子

《学校教育目標》

『自ら学び たくましく生きぬく 子ども』

○自ら学び 最後までやりとげる子ども（知）

○よさを認め合い、助け合う子ども（徳）

○進んで体をきたえ、健康や安全に気をつける子ども（体）

【発行日】 令和8年（2026年）2月27日

重点目標 学校を自ら楽しくする多度志の子 ～主体性を大切にした教育活動を通して～

## トラブルを成長のきっかけとするために

校長 渋谷 憲一

全国の小中学校では、いじめの実態を把握するため、全ての子どもたちに年3回アンケート調査を行います。いじめは「児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義されていることから（いじめ防止対策推進法）「いやなことアンケート」として実施します。

多度志小学校でも、冬休み明けに最後の調査と聞き取りを終えました。年間を通じた結果として、**具体的な事案の報告は5月の1件**でした。この件については、担任が双方の思いを丁寧に聞き取り、ご家庭の協力も得ながら見守りを続けた結果、今では共に笑顔で過ごす姿が見られています。

一方で、アンケートの数字に表れない小さな心の揺れは日々生まれています。だからこそ、本校では、回答の有無に関わらず、全員との面談を大切にしています。担任が一人ひとりと向き合い、言葉にならない不安をすくい上げる。この積み重ねこそが、子どもを見守る土台になるからです。

面談の結果は、全ての職員が共有することで、**学校全体で全ての子どもを見守り成長を支える**という指導のあり方を、その都度確認・協議しています。

「いやなことがあった」という回答がなくても、子どもたち同士のトラブルは起こります。もちろん、不要な衝突を避け、みんなが安心して気持ちよく過ごすために、学校や学級のきまりを確認したり、道徳の授業などで考えたりする機会もつくっています。望ましい言動があった際は、それを取り上げ、よりよい影響を与え合う場面も増えてきました。

しかし、異なる人間同士が共同で過ごす以上、トラブルを避けることは難しい。最も大切なことは、**トラブルが起きたときに、子どもたちがどう乗り越えようとするか**です。

子ども同士のトラブルは、避けるべき「負の出来事」だけではありません。異なる価値観を持つ者同士が過ごす中で、意見を調整し、相手の痛みを想像し、関係をつくり直していく。この一連のプロセスは、**社会へ出るための大切な学び**そのものです。

大人がすぐに正解を与えるのではなく、子どもたちが自ら納得できる解決策を見つけ出せるよう、私たちは粘り強く伴走していきます。**トラブルをきっかけにお互いが成長する機会**となるよう、子どもたちと向き合い支えていくのが、私たち教員の務めです。



もちろん、私たち教員だけでは、子どもたちの成長を全面的に支えることはできません。ご家庭との連携が不可欠です。お子さんが、私たちでは気づけない不安や悩み等を抱えているとご心配な際は、学校へご連絡ください。

引き続き、**子どもたちが成長し合う学校づくり**へのご理解・ご協力をお願いいたします。

